

あ・うん

金剛禅総本山少林寺広報誌

vol.
65

2019 文月・葉月

特集／2019年度道院長研修会

「よく整え、
さらに必要とされる教団へと進化しよう」



2019年度道院長研修会 「よく整え、

さらに必要とされる教団へと進化しよう」

5月から6月、4回にわたり道院長研修会が開催された。3年ぶりとなった今回の研修会では、道院の置かれている社会的状況や、これから求められる道院の姿について確認された。本山、道院が今なすべきことは何か。2日間のプログラムを通して、研修会のポイントを振り返る。

社会に求められる 道院であるために

1. 管長講話

「お帰りなさい」という大澤隆管長のこやかなあいさつから道院長研修会がスタートしました。初めに研修会の骨子について語られ、道院の使命とその実践において順守すべきこと、また、柔軟な在り方が求められている運営について、正しく認識するための研修となることが告げら



れました。そして、少林寺拳法創始70周年記念に制作され、配布されたショートムービー「少林寺拳法のあ風景」について振り返り、映像ではこれからの社会における道院の在り方が示唆されていると紹介され、「相手の気持ちをくみ取り、寄り添い、背中を見せ、行動すること、人々の不安や孤独を元気や笑顔に変えるすばらしい力が、道院、道院長にはある」と強く示されました。

道院として 守るべきこと

2. 道院運営上の危機管理

「ハラスメントについて」講師 藤本久俊弁護士(2次は三宅勇気弁護士)

いわゆる、パワハラ、セクハラを中心に、一般的事例にとどまらず、



道院の現場に当てはめての注意喚起でした。ハラスメントに該当するかどうかの基準や、違法性が問われる判断基準など、専門的見地から詳しく解説されました。

人と社会に貢献する運動のその現場に、ハラスメントという人権問題で苦しむ人や悲しむ人がいてはなりません。グループ全体でその撲滅に取り組み、より健全な環境を整える意義を確認できた講義でした。

◆アンケートより

- ・ハラスメントが生じやすい環境だと自覚し、指導者は常に学び、意識する必要がある。
- ・ハラスメントの正体を理解したことで、萎縮しがちだった気持ちが修正できた。
- ・金剛禅にあるはずのないハラスメントだが、その過信がくせ者である。

【宗団法人の税務・道院運営について】
講師 平澤伊佐男顧問税理士

本山と道院は、その会計において一体であり、その運用および決算共に、適正かつ厳正に一体で行われなければならないこと。また、技芸教授のたぐいと混同されることがあってはならないことなどが、社会での事例を基に、専門的見地から分かりやすく解説されました。

これまでの組織機構改革の意義やその必要性を、改めて強く確認できた講義でした。

◆アンケートより

- 今の社会状況と国の税務は一体であり、わが教団もその中にあるとの認識を強くした。
- 制度や本山の指導の意味がさらに理解でき、危機感を持つことができた。
- グループに関わる専門家の説明は大変分かりやすい。今後も取り入れてほしい。



金剛禪布教の原点とこれからの道院

3. 教学講義(宗門としての金剛禪)

1次、3次では須田剛教学委員会委員長が、「開祖は終戦直後の自分ことだけで精いっぱい時代に、『半ばは他人の幸せを』と、人づくりによる国づくりの運動を起こされ、時代の共感を得られました。私たちも、その志、原点を見据えて学び合ひ、開祖のように行動しましょう」と呼びかけました。

また、2次、4次では松本好史同委員が、「われわれ道院長が、最も勉強し、最も多感であるべき。『僧階教本』を、もう一度読み返しましょう。金剛禪のこと、道院長が何をすべきかが書かれている。そして、われわれが願っていること、行っ

ていることを、社会にしっかり伝えていきましょう」と語りかけました。



4. 金剛禪の充実に向けて

坂下充宗務局長が、2011年の組織機構改革に至った経緯を、創始からの組織の動きと開祖の言葉で振り返りながら、道院のあるべき姿について確認しました。

また、一昨年に提唱された7つの新たな施策のうち、すでに施行された布教助成制度と集合道院制度について改めて紹介し、これからの道院運営をより有益なものにする施策として、その活用を呼びかけました。

そして「広報の充実に向けて」では、倉本巨康局長補佐が、「布教とマーケティング/概論」と題して、SNSの時代における道院広報の在り方について、その指針を示しました。

また、「易筋行指導研修」では、人としての成長をもたらす易筋行の指導の在り方について、単独での基本修練や相対での法形修練の場合を例にとりながら提案し、実習しました。

足元を見つめ、未来に向かう

「これが道院」

●道院としての足元を整える

本研修会には、2つの大きなテーマがありました。

1つは、金剛禪教団の活動であるための要件や、その認識についての確認でした。

道院長は、開祖の志を継いで「人づくり」の聖業にいそしむ者です。少林寺拳法の指導は人づくりの手段であり、開祖が「魂の教師、人生の指導者」と例えたその指導者は、いわば無給の布教者です。その誇りは確固たるものです。

私たちは開祖の志である「人づくりによる国づくり」に共感、賛同する人々に、その教えと行法を伝えていくのです。しかし、世間一般からは、武道の道場や武道の先生と見られ、思われていないか。また、納める布施は、技芸教授の見返りとしての月謝などと思われていないか。そ

の活動は、大会での成績が目的の競技団体などと思われていないか——などなど。私たちは社会に貢献する善行を行っていきます。しかし、誤解されてしまうような油断や落ち度はないか、常に点検し、修正する必要があります。

「これも道院」

● 未来に向かって進化する

そして、もう1つは、これからの社会を見通すと、道院の在り方やその活動には——もちろん修練の在り方も広報の在り方も、柔軟性や多様性が求められているということの確認でした。

つまり、本山と一体である道院が、宗教法人としての要件が正しく整っていればこそ、その運営や活動は、それぞれの道院の特色や事情に応じたスタイルを出すことができ、出すべきということなのです。

少子高齢化による生活様式の変化を伴うこれからの情報社会において、公益活動の在り方は、時間も方法もより多様性が求められ、道院からの情報発信もまた、工夫が求められます。開祖がそうであったように、変化する時代の中で求められるものを察知し対応するには、私たちの感性も考え方も行動も、より柔軟

でなければならぬと考えます。

これからも感謝され、掛けがえのない道院であり続けるために、道院の柔軟な在り方を実現し、支えるものとして、一昨年、新たな施策が提唱されました。すべての道院に一律のものではなく、それぞれの道院の状況に応じて活用されるための施策です。これまでの運営にプラスして、新たな価値や取り組みを試し、魅^みせ方や伝え方を工夫していくということなのです。

本山は、これらの施策に限らず、これからの時代に向けた道院の取り組みをサポートし、支援していくとしていきます。

5. 代表講話

講習会の閉会にあたり、宗由貴少林寺拳法グループ代表からは、「これからの社会にこそ、私たちの教えや活動が必要」と強いメッセージが発せられました。少子高齢社会、福祉(介護・医療)問題、コミュニティの消失や変化、道徳や情操教育の希薄化など、社会が抱える問題に役立つことができる大きな可能性が、われわれにはあります。

また、「今までのやり方だけでなく、社会に目を向け、時代に合った運動に進化させ、発信していかなく

ればなりません」と現状の課題を指摘されました。これは、家族に介護が必要となったときや働き方の都合で、今までのように決まった曜日、決まった時間の修練では、参座することも困難になる可能性がります。現在の門信徒が末永く修行を継続できる環境を整えることが、これから入門される方へ門戸を広げていくことにもなります。

また、将来にわたり、この運動を継続するために、「コンプライアンスについて徹底しなければなりません」と改めて注意を喚起され、最後に、指導者全員へのねぎらいとともに、「協力し、前進していきましょう」と研修会を締めくくられました。

◆新しい芽が出ています

各都道府県教区からは、女性拳士の交流会、演武や寸劇など、趣向をこらした金剛禅ならではの大会、県内の若手幹部がベテラン道院長から学ぶ学習会、門信徒増加に向けた取り組みの企画など、未来志向で新たな取り組みにチャレンジしている活動報告が届いており、研修会ではいくつかが発表されました。

こうした新たな取り組みの輪が広がり、道院においても波及していくことを期待しています。

道院がその可能性を生かすには、これまでの実績を基に、これからの社会に応じた在り方を模索していく必要があります。本山、道院一体となって足元を見つめ、力を合わせて未来に向かっていきましょう。





開祖語録 ダイジェスト

1968年4月
大学合宿



緒になって、私の人生は変わった。

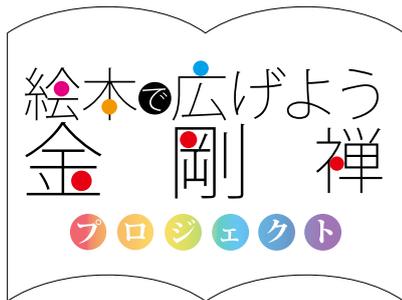
私は親に早く死なれ、貧乏して大きくなった。でも、己を見失わずにきた。なぜだろう。「俺みたいになつたらん、金も地位もない男、生きていたっておもしろくもないし寂しい」生まれたくて生まれてきたんだらうか」と、最初は思っていた。君たちだって、生まれたくて生まれてきたのはいないだらう。なぜ生まれてきたんだらうかと悩んだ者、いたら手を挙げてくれ。……やはり何人かいますね。

私もそうだったし、あるいは今の君たちより程度も悪かったから、自殺もしてみようとしたけれど、死ねなかった。

そういう中で、若いころ、中国の師にこう言われたことがある。「なぜ、命を粗末にする。生きているのは必要だからで、用が済んだら死ぬ。それが宇宙の実相だ。としたら、やけくそにならず、もっと一生懸命に自分の人生を生きようとしてみないか」と。それが、自分の存在を意識する端

人生だって変えられるはず

ある人たちは、人生を自分の思いどおりにしていける。そうできる人とできない人、どこが違うのだから。要するに、「自分で人生を計画し、実践できるかどうか」ということだ。君たち、本部へ来ようと思ったのは偶然か。先輩から言われてきたのもいるだらうけれど、それを決定し、実行したのは自分でしよう。なら、人生だって変えられるはずですね。考え、行動できるのは自分であり、自己の尊厳の認識はそこから始まる。俺は生きている。生きていく間は必要な存在だと思え。何を成すかは、それから決めたらいい。そうしたら自信もできる。私は、口だけじゃなく自信の裏付けを持ったうえで話すから、説得力がある。君たちだって、そうなれよ。自分だけが思い、考えたってだめなのです。行動に表さなければ意味がないし、行動に表されるものが内在して初めて「力」になる。



岡山県絵本プロジェクト
メンバー 伊達祐美子

分から手を挙げて、みんなの前に出て読んだのです。わが子のいつもと違った一面と可能性を見させていただきました」と感激した様子でした。開催を通して、子どもたちの笑顔、一生懸命な姿、皆さんの楽しそうな姿が、私たちにとって掛けがえのない喜びとなりました。

今回の活動をきっかけに、運営メンバーと見学に来てくれた女性拳士も加わっての女子会をつくることになりました。さまざまなイベントや各道院においても活動しようと思います。また、女性拳士の交流を通じて少林寺拳法の認知を高め、一人でも多くの仲間(拳士)が増えることを願っています。

子どもたちの笑顔、一生懸命な姿が掛けがえのない喜び

ことしも、桜の季節に岡山県美作市で行われている“少林寺拳法まつり”において、「絵本読み聞かせライブ」を行いました。午前・午後の2回の開催に80名以上の参加があり、大いに盛り上がりました。

企画・運営は、岡山県絵本プロジェクトのメンバーを中心に、武専本部地区の女性拳士の協力を得て開催することができました。

実際の読み聞かせでは少し工夫し、「パンダたいそう」「だるまさんがシリーズ」を取り入れ、絵本に合わせて体を動かしてもらったり、「読みたい人」と声をかけ、子どもたちにも順番に読んでもらいました。一人のお父様から、「引っ込み思案の子が自

今回読んだ絵本

◎パンダなりきりたいそう
作：いりやま さとし



チューリップ、バナナ、おにぎり、ひこうき……など、身近なものになりきって楽しく体をうごかそう。パンダなりきりたいそう、はじめ!

調和への思想へ導かれる修練

易筋行えつきんぎょう Ⅱ 少林寺拳法の修練において

は、「うまくならない」「強くなりたい」という思いが当然のように起ります。他の武道やスポーツでは、自分の実力を上げるために、自分の実力と同等以上の適切な相手を見つけたということは、よく聞く話です。ところが、人を育てることを重視し、組手主体の修練をするわれわれは、同等レベル、もしくは下級の人、さらにはかなりの年齢差のある子どもとも技術修練をすることが多いと思います。

同級の人との相対技術修練においては、とりわけ攻者は、「守者がどうすればうまくなるか考えながら攻撃するように」と指導を受けますが、下級の人とは、結果的には手を抜いて、相手の技量に合わせてやるだけになり、慣れ合いになったり、あるいは力を落として気の抜けた感じになったりしてしまいがちです。

相手に合わせるのは、相手がうまくなるだけではなく、自分もうまくなるという修練にならないと、金剛禅の「行(宗門の行)」にはならないという思いが、私に

は絶えず沸き起ります。

技に、その人の体質のみならず性格や考え方、さらには生き方が表れるように、「人はそれぞれに違いがあつて当然」ですが、「違い」を「異質なものの」「合わないもの」「対立するもの」とすることが起こるかもしれません。

「対立」という言葉には、マイナスのイメージを持つてしまいがちですが、対立があつてあたりまえ、そうであるからこそ調和に至るといふのがわれわれの考えであり、易筋行Ⅱ少林寺拳法の修練において一貫していなければいけないと思うのです。「異質なものと対立するものが、互いに偏りや矛盾や衝突などなく、互いがほどよく和合すること、また、そうさせること」が「調和」の意味だと、私は思うようになりました。

われわれの主行である易筋行Ⅱ少林寺拳法の修練は、調和の精神へと向かう修行法だと思ふのです。

その中でも、相手に勝ちたい、制圧したい、有利になりたいといった意識が最

も現出しやすいものの一つが乱捕り(運用法)でしょう。そのため、運用法の修練では、守主攻従に一致するように工夫された「立合評価法」が開発されたのだと思います。

相手は、敵ではないけれども他人であり、相手のことは完全に理解することはできません。しかし、相手と自分は違っても、相手のことを考えているうちに自分が変わっていく、そして自分本位の「我」をなくす方向に向かう「行」が、われわれの主行である技術修練にはあると思います。

これらを踏まえた技術修練は、精神修養になり、護身術として有効であり、かつ健康増進につながり、調和の思想へ導かれると思ふのです。また、そうなるように意識的に努力していく必要があるようにも思います。

このわれわれの技術修練の在り方を指導のつど確認しながら、主行である易筋行Ⅱ少林寺拳法の修練への追究を続けていきたいと思ふます。

わたしの 工夫

第12回

道院運営へのヒント・・・
もって道院の活性化、拳士の
育成につなげていこうという
コラムです。

今回の工夫を
教えてくれたのは・・・



おかやまひがし
岡山県・岡山東道院
やまもとかずあき
山本和昭 道院長

工夫① 繰り返すと人間は飽きる。目新しいことには誰でも高い興味を示す！

「道院長は、誰よりも高いテンションでなければならない」、そして、「道院長が本気でなければ、拳士は誰一人と



してついてこない」というのが、指導者としての私の信条です。さらに私には、拳士たちのテンションを上げる秘策があります。これは、取材ではご覧いただけない最大の必要事項なのですが、「繰り返すと人間は飽きる。目新しいことには誰でも高い興味を示す」という原則です。「風船チャンバラ」も、3回繰り返すとダラダラになってしまいます。「同じような内容は、連続2回が限度」ということです。ですから、常にアンテナを張って、少林寺拳法以外のことでも、「これ、いいな」と感じたことは、指導に取り入れてしまうんです。

実はきょう、他の道場で「けん玉」で集中力を高めている話を耳にしました。「よっしゃ！」と思い、来月にはけん玉を30個ほど仕入れてやろうと思っています。この「心意気とレスポンスの早さ」が、私の道院運営の工夫の一つです。

工夫② 教えないことが最高の指導法

もう一つの私の最大の工夫、それは「教えないことが最高の指導法」ということです。これは、皆さんにご紹介するとばかにされるか、軽蔑されるか、とにかく大変な議論が起きるかもしれません。ここまで至るのに何年かかったか、ということです。女房(まり子副道院長)と試行錯誤の連続で、叱ったり、なだめたり、ヒント一覧表を作ったりと、あらゆることをしてきました。

しかし、こちらが教えれば教えるほど、拳士たちは教えられて当たり前、という状態が続くんです。拳士たちが自ら求める状態をつくらなければ本物ではない！そこにポツリと「自分で考えてやれば、こんなにうまくできるんだ！」という意識と喜びを芽生えさせる。そして、その芽をドンドン成長させて、周りにも影響力を与えられるまでに育て上げる。さらにその状況が、先輩から後輩に受け継

がれ、ロータリーエンジンのように、パワーを発揮させるようになる。これが“自主性のローテーション育成法”だと思います。いろいろな面で相当な覚悟がないと、一朝一夕には困難な「工夫」なんです。



担当／飯野貴嗣

道院長

vol.47

元気の素

おおがき
岐阜県・大垣道院まつばらみつたか
道院長 松原光孝(51歳)

楽しく汗を流す

前道院長の後藤昭一先生より、「まず、稽古で汗をたくさんかくことである。理屈はあとからついてくる」と薫陶を受けてきましたので、「楽しく汗を流す稽古をする」これが私の指導方針

です。その一方で、性別、年代、ニーズなどが異なる、さまざまな門下生全員が楽しめる稽古ができるよう工夫をしています。「基本30分」『鎮魂行・法話30分』資格別練習30分」というパターンで、毎回の練習を

組み立てています。一つ一つの内容の時間を区切って行うことによって、メリハリをつけ、集中して稽古に取り組めるようにしています。また、月曜日は柔法中心、水曜日は剛法中心、金曜日は剛柔合わせた稽古となるようにし、技術が偏らないようにも工夫しています。さらに、毎回の稽古内容をSNS上に掲載し、読んでくださる方のリアクションを、今後の稽古に生かすようにしています。

地域の布教から世界へ

金剛禅の教えと少林寺拳法の技法を、ますます広めていきたいと考えて、教育現場や自分の住んでいる地域、そして、世界で一つの少林寺拳法であることを生かして、世界の国々の人たちとともに少林寺拳法を楽しんでいくことに挑戦したいと思います。

具体的には、公立中学校の教員という立場で教育に携わっていますので、将来を担う若者たちに、日常生活の中で金剛禅の教義に基づいた考えを広め、自信を持ち、相手のことも考えていけるような人を育てていきたいと思っています。武道必修化の流れの中、保健体育の授業で少林寺拳法の採択を目指したり、不審者対応の避難訓練の中で、護身術として少林寺拳法を紹介したりしています。職場も道場も、人づくりという共通点をうまくつなげ、少林寺拳法を柱とした人づくりを展開していきたいと思っています。

精いっぱい取り組むこと……

道院活動を続けるために、仕事・道場・家庭のそれぞれの場において、自分にできることに

精いっぱい取り組むことを第一とし、自分のできない部分は、多くの方々に助けていただいています。仕事については、勤務時間中にできるかぎりの仕事を終わらせ、道院の開始時間に間に合うようにしています。土日の部活動と少林寺拳法の行事が重なったりするようときには、職場の方々に話し、理解を得たうえで支えていただいています。また、どうしても時間に間に合わないときには、道院の幹部の皆さんにお願いして、先に始めてもらっています。

わが家は、家内と子ども3人全員が拳士なので、道院での稽古が家族のコミュニケーションの場にもなっており、家族一緒に過ごす時間がとても多くあるので、少林寺拳法のおかげで家族の絆も強くなったと感じています。

道院長は、拳士の喜びが自身の喜びとなる

小学校の低学年のときには、稽古のときに暑いというだけで泣いていた拳士が、高学年になり、後輩拳士のお世話をしてくれたり、中学校や大学に進学した拳士、また就職した拳士が、修行を継続してくれていることに喜びを感じます。また、門下生が努力しているときには励まし、喜んでいるときには共に喜び、そして日々成長していく姿を目の当たりにできることが、道院長になつてからの私の楽しみです。

少林寺拳法は、「自己確立・自他共業」の道です。自ら、より多くの拳士とともに修行することが自身の人生の充実につながるはず。この道を生活の柱に据え、ぜひ、指導者としての一歩を踏み出していきたいと思っています。

※プロフィールなど、金剛禅オフィシャルサイトの全文もぜひご覧ください。

本山 開催報告

● 本山公認教区講習会（派遣講師）

〔3月10日〕大分県教区（宇都宮俊二）

● 教区研修会

〔3月10日〕三重県教区

〔3月17日〕神奈川県教区

〔4月28日〕和歌山県教区

〔4月29日〕栃木県教区

● 小教区研修会

〔3月3日〕沖縄小教区

〔3月10日〕東京第十四小教区

〔3月24日〕神奈川横浜第三小教区、熊本南小教区

〔3月31日〕山口東小教区

〔4月7日〕岩手県南小教区、岩手盛岡小教区、東京第十五小教区

〔4月13日〕長野東信小教区

〔5月5日〕神奈川西湘小教区

〔5月6日〕埼玉第五小教区

金剛禅総本山少林寺主催行事のご案内

次世代ネットワーク 交流会

in 金剛禅総本山少林寺

2019.9.7-8

初日（土） 12:00 - 21:00
二日目（日） 9:00 - 13:00

参加費

10,800円
《昼食・夕食込》

対象者

次世代を担う
すべての
指導者・拳士

年齢上限はありません。
(少年部対象外)
一財会員も参加可

『次世代ネットワーク交流会』は「繋ぐ」をテーマに、金剛禅の将来を担う次世代指導者・拳士が一堂に会し、互いを知り・つながり合うことを目的に開催します。下山後、本山で創られたネットワークが各地に根を張り、また新たな次世代を繋いでゆくことを目指します。

この次世代のつながりが人を呼び寄せる力となることを強く期待するものです。

主なプログラム

金剛禅や修行法に関する意見交換、易筋行研究、指導法研究、ウェルカムランチ、夕食懇親会、本山宿泊体験…など（予定につき変更となる場合があります）

参加申し込み方法

今後、本山からのEメールやマイページのお知らせにて、詳細をご案内していく予定です。

企画・問い合わせ先

本山および次世代ネットワークプロジェクト委員会
事務局…政策室・倉本 / TEL 0877-33-1010（内線 133）

2019年4月度 認証

交代

箕輪中部道院	飯島 伸一	坂出専修道院	大西 修一
三重嬉野道院	川井 香奈	豊南道院	竹内 猛
三原道院	井上 忍	広島矢野道院	藤岡 操

僧階昇任者

中導師 2019年4月1日付

平野 高至(名古屋緑道院)	中山 貴宏(神戸甲南道院)
奥西 千秋(川西南道院)	竹澤 光広(木津道院)

権中導師 2019年4月1日付

大野 靖二(岩見沢北道院)	片橋 淳(東京目黒道院)	安藤 正二(横浜星川道院)	植村 新吾(箕島道院)
松村 高志(三沢中部道院)	佐々木 貴章(東京洗足池道院)	毛呂 小鼓音(横浜和泉道院)	品川 誠造(和歌山東道院)
笠間 義幸(会津猪苗代道院)	平林 実(亀有道院)	沖崎 徹(相模林間道院)	畑中 秀紀(海南黒江道院)
福岡 正則(秩父道院)	酒寄 浩(亀有道院)	垣内 秀司(新潟亀田道院)	喜多 竜巨(高松東道院)
綿野 廣之(草加道院)	佐々木 正太郎(亀有道院)	廣上 ゆかり(富山婦中道院)	井上 孝己(高松東道院)
鈴木 竜也(千葉海匠道院)	成澤 裕喜男(亀有道院)	澤根 淳一(浜松中央道院)	金丸 将之(丸亀京極道院)
伊藤 浩一(千葉海匠道院)	成澤 裕子(亀有道院)	角田 芳光(伊豆葦山道院)	藤原 和宏(今治道院)
清水 明臣(東京東小岩道院)	駒井 弘(東京大泉西道院)	松井 基員(大阪伊吹道院)	越智 修二(今治道院)
清水 和貴(東京東小岩道院)	河西 静夫(横浜本郷道院)	門林 洋勝(大阪富木道院)	伊藤 博之(泉州道院)
中平 征明(練馬道院)	岸本 洋介(神奈川大和道院)	北岡 和明(泉南西信達道院)	太田 昌徳(長崎浦上道院)
下窪 信一(経堂道院)	宮澤 栄(東戸塚道院)	稲田 武人(神戸兵庫道院)	

少導師 2019年4月1日付

石崎 朱理(石狩花川道院)	中原 由起子(群馬北毛道院)	村山 早苗(八王子南道院)	早川 弘晃(愛知香久山道院)	萩原 彰(川西南道院)
村谷 風太(札幌新川道院)	粕川 奈甫(群馬北毛道院)	池西 光涼(東京福生道院)	柳澤 海大(愛知香久山道院)	金子 誠司(淡路緑道院)
玉田 誠(札幌新川道院)	諸見里 朝秀(埼玉鶴瀬道院)	藤田 昌彦(東京大塚道院)	穂積 正隆(愛知小牧道院)	水谷 大(樺原道院)
阿部 麟太郎(札幌あいの里道院)	五十嵐 裕美(埼玉鶴瀬道院)	仲井 由夫(東京大塚道院)	松井 琴音(愛知小牧道院)	武野 勝文(奈良中央道院)
鳥山 幸健(岩見沢北道院)	丸山 真由(埼玉鶴瀬道院)	山内 武比古(東京大塚道院)	加藤 桂子(愛知吉良道院)	舛本 有市(大和高田道院)
佐藤 日菜子(北海道余市道院)	東 麻美(埼玉鶴瀬道院)	斎藤 久(横浜本郷道院)	徳倉 英里(愛知吉良道院)	名村 俊輔(木津道院)
城澤 大河(石狩緑苑道院)	野村 奈緒(埼玉鶴瀬道院)	小池 紗知子(横浜本郷道院)	加藤 睦(愛知吉良道院)	前畑 圭司(奈良宝来道院)
井上 博之(富良野光明寺道院)	赤星 誠(浦和美園道院)	諏訪 正二(川崎西道院)	井上 友菜(三重上野道院)	杉原 剛(広島可部道院)
塚田 望生(富良野光明寺道院)	横山 和明(浦和美園道院)	中川 修一(川崎生田道院)	森下 智哉(三重上野道院)	近藤 義文(脇町道院)
小川 璃子(富良野光明寺道院)	浅見 洋行(浦和美園道院)	渡邊 大士(海老名国分道院)	安川 仁斗(三重上野道院)	大西 美咲(坂出専修道院)
西村 有菜(富良野光明寺道院)	酒井 昇(草加道院)	齋藤 輝充(横浜和泉道院)	岡本 正巳(滋賀伊吹道院)	高木 晴生(坂出専修道院)
遠藤 聖哉(多賀城城南道院)	西野 亨(所沢竜王道院)	角田 典佳(横浜名瀬道院)	中川 貴仁(滋賀近江道院)	喜田 悠月(坂出専修道院)
金成 定則(仙台西道院)	村上 俊浩(埼玉上尾道院)	山崎 福徳(横浜名瀬道院)	谷口 真平(琵琶湖大橋道院)	谷 龍一(坂出専修道院)
横澤 昭子(長井ひなた村道院)	横山 宣之(流山道院)	若田 紗希菜(白山加賀野道院)	矢野 陽祐(天津比良道院)	出井 達也(坂出専修道院)
沼澤 祥平(長井ひなた村道院)	若森 直巳(練馬道院)	梶野 正和(山梨峽東道院)	田中 大貴(伏見道院)	清水 壮(伊予三幡浜道院)
安島 直也(勿来道院)	鈴木 貴子(東京千代田道院)	井出 海斗(佐久平南道院)	山下 信(洛陽道院)	萩原 真善(佐世保南道院)
菊田 浩(水海道道院)	長谷川 健太(南中野道院)	坂田 恵子(佐久平南道院)	高柳 剛(西陣北道院)	広瀬 聡(熊本銀杏道院)
緒方 響(水海道道院)	清水 大輔(八王子西道院)	徳武 信一郎(佐久平南道院)	中島 準仁(大阪北道院)	赤池 謙介(人吉球磨川道院)
迫 大介(茨城高萩道院)	杉森 郁美(八王子西道院)	渡辺 隆浩(八百津道院)	酒谷 親弥(泉州尾崎道院)	有形 俊治(人吉球磨川道院)
菅井 悠生(栃木城南道院)	羽生 智彦(八王子西道院)	芹澤 宗丸(伊豆葦山道院)	岡田 裕司(美原西道院)	田中 伸明(人吉球磨川道院)
船生 恵日子(栃木鹿沼道院)	友井 啓了(八王子西道院)	佐藤 秀太(尾張守山道院)	三笠 七海(東大阪小阪道院)	澤井 和代(人吉球磨川道院)
小澤 俊博(宇都宮北部道院)	中野 希美(八王子西道院)	加藤 俊英(岡崎中部道院)	西田 純(箕面北道院)	本田 博史(薩州日置道院)
浅野 滋春(宇都宮北部道院)	鳥塚 仁(八王子西道院)	山崎 祐一(岡崎中部道院)	佐野 隆(尼崎潮江道院)	
濱田 慎一郎(前橋中部道院)	松下 龍也(八王子南道院)	三矢 晃(岡崎中部道院)	石村 達也(尼崎潮江道院)	
小田切 勇吾(群馬北毛道院)	堀 賢太郎(八王子南道院)	前田 恭介(津島西道院)	面田 洋(川西南道院)	

お布施

開祖忌法要・物故指導者顕彰法要	▷行橋中部道院 河村 勝則	10,000円	▷中曾根道院 村上 茂	10,000円
▷東京飛鳥道院 村上 喜久	▷今仁 猛雄	10,000円	▷山上 万智子	10,000円
開祖忌法要	▷田村 道明	5,000円	布施	
▷小名浜道院 福家 祥弘	物故指導者顕彰法要		▷大西 要	10,000円
▷伊那道院 小池 靖彦	▷仙台中央道院 阿部 二三男	30,000円	▷豊田末野原道院 服部 俊美	10,000円
▷三重千種道院 中山 文夫	▷田村英機	20,000円	▷川崎稲田道院 篠原 瑠璃音	5,000円
▷三重津東道院 浜崎 哲也	▷石川大聖寺道院 大家 元美	10,000円	公認講習会	
▷大阪神宮寺道院 下川 博隆	▷石川大聖寺道院 大家 国人	10,000円	▷奈良県教区	30,000円
▷高松木太道院 鎌田 智	▷石川大聖寺道院 大表 恵美	10,000円	▷山口県教区	30,000円
▷北条東武道院 大石 哲也	▷大阪住吉道院 西村 やよひ	10,000円	▷大分県教区	30,000円

訃報

うえだ きよし
上田 清 直島道院元道院長、78期生、大導師大範士九段、2019年4月12日逝去、満87歳



ショートムービー「少林寺拳法のある風景」を、ぜひご覧ください。

今の社会における少林寺拳法の価値と魅力に気づくことができる動画です。少林寺拳法グループサイトのトップページ(<https://www.shorinjinkempo.or.jp/>)の下部にあるバナーをクリックすることで視聴できます。



宗門の行としての少林寺拳法 動禅

静かに心を鎮め、自己を鋭く見つめ、自己の内にある可能性に気づいていく静禅(座禅)に対し、易筋行は「動禅」(動く禅)といわれる。

相対演練を繰り返していくと、互いの呼吸が整うことで自然にリズムよく体が動くようになる。

さらに没頭していくと、考えるより先に体が動き、理にかなった動きができるようになる。思考の入る余地がなくなることで感性が研ぎ澄まされ、ダーマを感得しやすくなる。



天地拳第一系 相対

金剛禅総本山少林寺公式サイトで
動画をご覧いただけます。

撮影／志村 力 文／富田雅志 演武者／守者：中川 純 正範士七段・攻者：富田雅志 大拳士六段



SHORINJIKEMPO
少林寺拳法